

氏 名	佐能 俊紀
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6323 号
学位授与の日付	2021 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey (東日本大震災後の心理的因子と避難と、その後の循環器疾患との関連： 県民健康調査を用いた前向き研究)
論文審査委員	教授 賴藤貴志 教授 伊藤 浩 准教授 寺田整司

学位論文内容の要旨

目的：災害後の心理的因子や避難が循環器疾患に与える影響を評価した報告は限られている。大規模コホートを用いて心理的因子と避難との組み合わせが循環器疾患に与える影響を前向きに検討した。

方法：東日本大震災後に福島県民を対象とした自記式調査に回答し、2012 年に循環器疾患の既往がない 30~89 歳の男女 37,810 人を、2017 年まで追跡した。心理的因子と避難の組み合わせに基づき対象者を 4 群(両方無し、心理的因子のみ、避難のみ、両方あり)に分け、追跡期間中の循環器疾患発症を調査し、生存時間解析を行った。

結果：追跡期間中(平均 3.7 年)の循環器疾患の発症者数は 3,000 人であった。男性では、心理的因子のみある者に対し、心理的因子と避難が両方ある者では、脳卒中と心臓病のリスクが上昇した。女性では避難によるリスク上昇はなかった。

結論：東日本大震災後の心理的因子を持つ男性に避難が加わると、循環器疾患の発症リスク上昇することが明らかとなった。この研究は避難を伴う災害後の循環器病予防対策に示唆を与えるものである。

論文審査結果の要旨

心理的因子や避難それぞれが循環器疾患のリスクを上昇させることはわかっているが、災害後の心理的因子や避難が循環器疾患に与える影響を評価した報告は限られている。

本研究では、東日本大震災後に福島県民を対象とした自記式調査に回答した 37,810 人を前向きに追跡し、心理的因子と避難との組み合わせが循環器疾患に与える影響を評価した。結果として、男性では特に心理的因子と避難が両方ある群で、なにもない群と比べ、脳卒中や心臓病のリスクが上昇していた。

委員からは、今後の課題として、心理的因子と避難の変数の取り扱いに関して、助言があった。

本研究は、非難を伴う災害後の循環器病予防対策について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。